SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

# Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.154　/　2019 .FEB

## 「第2回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会」を開催しました

第2回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会開会式の様子

2月18日（月）から21日（木）まで、仙台大学柔道場を中心に表題の大会を開催しました。この大会は昨年の仙台大学開学50周年記念事業の一環としてスタートし、全国の女子学生を対象として行われる全国的にも（世界的にも）稀有な大会です。さらに本学と交流のある海外の大学も招待しており、今年は台東大学（台湾）にご参加いただきました。大会の大きな特徴として、試合を行うだけでなく、「学び・競争・交流」というスポーツの持つ特性・魅力を再確認できるようなプログラムとなっています。

18日は大会に参加する200名を超える女子アスリートが本学に集合し、アクレディテーションと計量を行い、その後、全日本柔道連盟・全日本学生柔道連盟共催の「キャリアアップ・セミナー」を開催しました。

19日には試合を実施し、予選リーグと決勝トーナメントから構成され、1チームにつき少なくとも4試合をする構成としました。これは選手強化も当然ですが、普段接することのない選手と対戦・交流することを目的としています。

本大会の結果は次の通りです。

優勝:龍谷大学、準優勝:帝京科学大学、三位:淑徳大学、四位:帝京大学

本学柔道部は惜しくもベスト8という結果でした。いずれの試合も非常に高度な攻防が展開されましたが、インカレ王者である龍谷大学が混戦を制する結果となりました。

試合終了後は学生食堂「なちゅら」にてフェアウェル・パーティーを開催し、北海道から近畿地区の大学、台東大学など、普段深く交流することのないチームも和気藹々、親睦を深めました。この経験とつながりが社会に出てからの彼女たちの人生を支えてくれることと考えています。

本大会の開催にあたって非常に多くの方からご支援を頂戴いたしました。特に大会に協賛をいただきました、株式会社イカイ様、東日本医療専門学校様、株式会社スポーツフィールド様、盛岡医療福祉専門学校様、仙台接骨医療専門学校様、宮城県警柔会様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

また運営サイドとしましては、昨年以上の盛り上がりを感じております。来年も今年以上の真剣な学び、白熱した試合、和気藹々とした交流を目指して運営していく所存です。

＜報告：柔道部＞

「キャリアアップ・セミナー」の様子

〈 目　次 〉


| | |
|---|---|
| ・柔道部：「第2回仙台カップ全国女子学生柔道団体対抗大会」を開催しました | 1 |
| ・スポーツ情報サポート研究会が活動報告会を開催しました<br>・「マイナビベガルタ仙台レディース選手によるサッカー教室」を開催しました | 2 |
| ・吉田洋志新助手（男子ハンドボール世界選手権・日本代表情報分析スタッフ）が帰国報告<br>・「春季海外留学・研修 結団式、危機管理研修会」を開催しました | 3 |
| ・『平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定』<br>・健康タウンしばたプロジェクト2018 閉講式を開催 | 4 |
| ・平成30年度健康づくり運動サポーター事業　上級実習「健康まつり」及び「秋の健康収穫祭」合同報告会<br>・男子バレーボール部:バレーボールアカデミーを開催しました | 5 |
| ・2018年度学術講演会を開催しました<br>・本学の池田敦司教授がUNIVAS専務理事に選任されました | 6 |
| ・新・卓球部OB会に寄せて | 7 |
| ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.11 | 8 |


学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

※仙台大学大学院開設20周年を祝う会の記事については3月号に掲載予定です。

# スポーツ情報サポート研究会が活動報告会を開催しました

2月4日（月）LC棟1階で、スポーツ情報サポート研究会の平成30年度活動報告会を開催しました。本研究会は、約30名の学生が8つのグループ（男子バレーボール、女子バレーボール、硬式野球、サッカー、女子バスケットボール、男子ハンドボール、女子ハンドボール、メディア）に分かれて、競技力向上を目的としたパフォーマンス分析やプロモーション映像の制作など、「情報を活用」したサポート活動を展開しています。
今回の報告会ではLC棟の3面大型スクリーンを活かし、左にプログラム、中央に発表グループのスライド、右に参加者からの質問と感想を表示させました。本研究会の報告会において、質問等をリアルタイムで表示することは初の試みでしたが、アプリケーションを通して80を超える質問が投稿され、活発な質疑応答が行われました。
各サポートグループの報告から、年々活動の質が高まっていることを窺うことができ、次年度の活動にさらなる期待が持てる有意義な報告会となりました。
＜報告：スポーツ情報マスメディア学科＞

報告会の様子

# 「マイナビベガルタ仙台レディース選手によるサッカー教室」を開催しました

柴田町より受託している「柴田町トップアスリート育成事業」の一環として、マイナビベガルタ仙台レディースで本学職員の奥川千沙選手と本学園である明成高等学校卒業生の武田奈々子選手がサッカー教室をおこないました。

柴田町立西住小学校での活動の様子

2月1日（金）柴田町立西住小学校の小学1年生～小学3年生の56名が参加し、ボールを使って、ドリブルやパスの練習、各学年対マイナビベガルタ仙台レディースチーム（奥川選手、武田選手、斎藤コーチ、上野コーチ、熊谷校長）のミニゲームを行い、参加した児童は約1時間大いに楽しみました。
またミニゲームに参加された西住小学校の熊谷浩校長先生は本学卒業生となります。

柴田町立船迫小学校での活動の様子

2月7日（木）柴田町立船迫小学校の小学6年生の69名が参加し、前回と同じくボールを使ってドリブルやパスの練習、また各チームに分かれてボールを集めるゲームなどを行いました。最後にマイナビベガルタ仙台レディースチーム（奥川選手、武田選手、斎藤コーチ、上野コーチ）のミニゲームを行い0-3で船迫小学校チームが勝利するなど大いに楽しみました。
サッカー教室が終了後には選手・コーチからサインをもらいに積極的に交流を深め、児童からは、「選手のプレーを間近で見ることができ勉強になった。機会があれば試合に応援に行きたい。」などの感想を頂きました。

# 吉田洋志新助手（男子ハンドボール世界選手権・日本代表情報分析スタッフ）が帰国報告

分析活動を行う吉田新助手

遠藤保雄学長に報告後の様子

1月30日（火）吉田洋志新助手（男子ハンドボール日本代表・スポーツ情報分析スタッフ）がドイツ（ミュンヘン）で行われた男子ハンドボール世界選手権大会(2019年1月10日～1月27日開催)において日本代表チームの情報分析サポートのため帯同し、その活動結果を遠藤保雄学長に報告しました。吉田新助手は本学25年度の卒業生で、2018年1月より男子ハンドボール日本代表のスポーツ情報分析スタッフとして活動しています。
2年に1度行われるこの大会は、世界から日本を含む24チームが参加、各グループステージで総当たり方式で戦い、次いで、各グループで上位3チームが決勝トーナメントで世界一を競うもの。この大会にはドイツやデンマーク、スペインなどの世界の強豪チームが参加しました。

日本チームは、残念ながらグループステージで敗退しましたが、吉田洋志新助手はその中でも情報分析の視点から見ても、試合内容をみると収穫があったと次のように総括しました。「グループステージで敗北の内容をみると、①これまで大差で敗れていたスペインやアイスランドに僅差に迫るなど収穫があった。②相手国の選手構成、各選手の癖、チームの戦術等の情報分析が一定の効果を発揮した。とみています。この経験をベースに、今回の大会で情報のなかった選手やチームの戦術の情報をより深く収集・分析し、チームが勝てるようにしていきたい」と吉田新助手の先を見据えた報告を受け、遠藤保雄学長は「国際試合におけるスポーツ情報分析の重要性が一層増していることを認識した」としつつ、「日本のトップレベルの選手のサポートする役割として非常に重要であり、その集めた情報によって勝利に貢献できるよう今後も頑張ってください。」と期待を述べられました。

# 「春季海外留学・研修 結団式、危機管理研修会」を開催しました

遠藤保雄学長より激励を頂く様子

各プログラムに参加する学生から決意表明の様子

2月1日（金）に「平成30年度春季海外留学・研修 結団式、危機管理研修会」を開催しました。今回は、7つのプログラム（韓国・龍仁大学校／台湾・台東大学／アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校／アメリカ・ハワイ大学／デンマーク・ノアフュンス国民大学、南デンマーク大学／フィンランド・カヤーニ応用科学大学／ニュージーランド・カンタベリー大学、CCEL）に31名の学生を派遣します。各プログラム毎に参加する学生の自己紹介ならびに代表からの決意表明がありました。
＜報告：国際交流センター＞

# 『平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定』

本学は、現在、在仙の楽天イーグルス・ベガルタ仙台・仙台89ERSの3球団とアカデミック・パートナーシップ協定を結んでいます。
この協定に基づき、プロ3球団との間で、「プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業」を推進すべく、文部科学省の平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定いただくよう、予算要求してきました。この度、見事、全国20校の選定校の一つに選定されました。
(157校中、20校が選定)

■「私立大学研究ブランディング事業」について
「私立大学研究ブランディング事業」とは、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学等に対して重点的に支援を行う事業です。
■「プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業」について
東北で唯一のスポーツ・健康科学の総合大学である本学では、「スポーツ・フォア・オール（スポーツは健常者・障がいを抱えている者や性別の区別なく、また、子どもから成人・高齢者を含むすべて者にとって楽しみ展開していくもの）」の基本理念のもと、本学学生が、「する・みる・ささえる」のスポーツの3つの側面に何らかの形で参加・関与することを通じ、スポーツ・健康科学を実践的に学んでいます。

その教育研究内容を深化拡充していくためにも、また、その成果を地域社会の活性化に活用し地域創生型スポーツ社会の振興に資していくためにも、スポーツに関する「みる・する・ささえる」事業活動を、プロフェショナルに展開する仙台の 楽天イーグルス・ベガルタ仙台・仙台89ERSの3球団の事業内容に着目し、それを題材として研究ブランデング事業を展開していきます。
具体的には、在仙のプロ3球団とのアカデミックパートナー協定に基づき、本学の教育研究陣が総力を挙げて、プロ3球団のスポーツのもたらす教育的、社会的、経済的な効果を共に解明していきます。
そして、この事業成果は、プロ3球団の事業活動の地域における定着・ファンの拡大はもちろんのこと、地域社会の活性化につなげていくとともに、これら事業研究を通じ、本学としても、学長主導の下、教職員が一体的に取り組み、地域社会の方々とともに、「地域創生に貢献する実践型スポーツ教育研究する大学」というブランディングの確立に努めていきたいと考えています。

# 健康タウンしばたプロジェクト2018 閉講式を開催

ストレッチでからだを動かす参加者

閉講式の様子

2月24日（日）仙台大学LC棟で「健康タウンしばたプロジェクト2018」の閉講式を開催しました。本事業はスポーツ庁の補助事業として柴田町が採択され、本学が委託を受けた事業になります。「心浮き浮き」をテーマに①「健康運動・スポーツ促進教室」と②「ノルディックウォーキング」の2つのプログラムを設け、9月～3月にかけて実施しております。「健康運動・スポーツ促進教室」は19地区を回り、延べ498名の方々にお集りいただき、体組成測定や健康体操を体験していただきました。「ノルディックウォーキング」は、6回開催し延べ190名の方々がかっこいいノルディックウォーカーを目指し、楽しみながら身体を動かしました。
閉講式では両プログラムの参加者が交流しプロジェクトの振り返りや報告を行いました。
参加者からは「ノルディックの指導者に教えていただき、正しい知識で運動でき大変良かったです」や「自分から進んで動くことが無かったですが、今日教えてもらった事を続けてみようと思います」と感想をいただきました。
今後も町民の運動実施のきっかけづくりの場を提供できるよう、地域のニーズを把握し、柴田町と協力しながら住民の運動実施率の向上のため尽力していきたいです。
＜報告：新助手　松浦里紗＞

# 平成30年度健康づくり運動サポーター事業
# 上級実習「健康まつり」及び「秋の健康収穫祭」合同報告会

2月8日(金)にLC棟2階会議室で、平成30年度健康づくり運動サポーター事業上級実習「健康まつり」及び「秋の健康収穫祭」の合同報告会が開催され、本学教職員や柴田町行政区区長が出席しました。

健康づくり運動サポーターは、仙台大学独自の運動指導者資格で、初級・中級・上級と3つの級があります。各級を取得するためには、学内で開講する養成講座を受講し、柴田町をはじめ、近隣市町村での現場実習を経て資格が授与されます。上級は、地域の健康イベントを地域の担当者である行政区役員、柴田町役場、柴田町地域包括支援センター、槻木地域包括支援センターなどと協力して参加者の満足度高める活動などを企画・運営します。

今年度は上級取得を目指す学生が４名おり、柴田町内の２つの行政区を対象にイベントを開催しました。「健康まつり～健幸の花を咲かせよう～」の開催を担当した四日市綾香さん(運動栄養学科4年)は「大きな達成感と多くの学びを得たことが自身に繋がりました」、忠鉢礼菜さん(大学院2年)は、イベントを企画し、実施する経験が今までの人生の中で一度もなかったのでとてもいい経験になりました」と話してくれました。

「秋の健康収穫祭　～みんなこっちさございん～」の開催を担当した鈴木萌子さん(健康福祉学科4年)は、「関係者全員で協力し、責任感を持って計画立てする重要性を感じることができました」、引地あゆみさんは「地域のニーズに応えるために、全員で協力し、意見を出し合うことでイベント運営ができるということを学びました」と話してくれました。

両イベントともに、参加者の笑顔に溢れ、とても明るい雰囲気での活動になりました。来年度も参加者の満足度を高め、より明るい雰囲気で、安全なイベント運営ができるよう学生のサポートをおこなって参ります。

＜報告者：田中亨新助手＞

＜健康まつりの報告をする忠鉢さん（左）四日市さん（右）＞

＜秋の健康収穫祭の報告をする引地さん（左）と鈴木さん（右）＞

＜出席者での集合写真＞

# 男子バレーボール部:バレーボールアカデミーを開催しました

参加した小中学生のレベルにあった指導をする様子

本学男子バレーボール部が1月に小中学生を対象としたバレーボールアカデミーを開催しました。参加した小中学生のレベルに合った指導を行い、楽しくバレーボールを行うことができました。指導にあたった学生も丁寧に教えている姿が印象的で、参加した選手も普段とは違う環境で大学生の指導を真剣に受けていました。全体を通して子どもたちの技術の向上とバレーボールを積極的に楽しんでいる様子がうかがえました。

今回のバレーボールアカデミーでは柴田町以外の地域からも多くの選手が参加してくれました。今後もこのようなアカデミー活動を継続していく予定です。

＜報告：男子バレーボール部＞

# 2018年度学術講演会を開催しました

講演会の様子

講師の佐藤豊教授

2月14日（木）に本学LC棟にて、2018年度仙台大学学術講演会が開催されました。
学術講演会は毎年、学術会運営委員を担当している教員の方々で企画・運営を行っており、今年度は全体を通して5回目の学術講演会となります。
今年度の講演テーマは「体育科・保健体育科の新学習指導要領で目指すこと」と題し、講師として桐蔭横浜大学の佐藤豊教授をお招きしました。講演では新学習指導要領の本格的な実施に向けて、教育現場で指導を行う保健体育教員はどのような授業を展開すれば良いのか、また、保健体育の教員養成に向けた学生教育の方法などを解説して頂きました。
学術講演会当日は、本学の教員や教職を目指す学生、また、近隣の小・中・高校の先生方にもご参加頂き、講演が進むにつれ活発な意見交換も行われました。
参加して下さった本学教員からは、これからも大学内に限らず大学周辺の方々にも聴講できる内容の講演会をぜひ開催してほしいとの意見も頂戴しました。
学術会では学術講演会を通じて仙台大学が学外に開かれた学術・学問を提供できる場であることをより一層PRできるよう力を尽くして参りたいと考えております。
最後になりましたが、お忙しいなか学術講演会へご参加頂きました皆様へこの場をお借りして感謝申し上げます。
＜報告：学術会＞

# 本学の池田敦司教授がUNIVAS専務理事に選任されました

池田敦司教授

2月25日（月）に「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の第5回設立準備委員会が開催され、協会常勤の幹部としてその管理運営を担う専務理事に本学体育学部教授の池田敦司氏が就任することとなりました。
池田敦司教授は、楽天野球団副社長、ヴィッセル神戸社長等の豊富な実務経験を活かし、本学で企業スポーツ論、スポーツ産業論等の講義を担当してきました。
「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の設立の検討に際して、スポーツ企業での実務経験を生かし、設立準備委員会主査として、パートナーシップ構築に向けた仕組み作りに寄与しました。
このような実績をベースに、今回、専務理事に就任することとなり、今後、東北地方の大学スポーツ振興の良きパイプ役として期待されます。なお、「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の会長には、鎌田薫氏（日本私立大学連盟会長・前早稲田大学総長）、副会長には川原貴氏（日本臨床スポーツ医学会理事長）、有森裕子氏（日本陸上連盟理事）の両氏が就任することも決まりました。
「大学スポーツ協会（UNIVAS）」は2月25日現在で196大学、31競技団体が参加を表明しており、3月1日に一般社団法人として設立される予定となっております。

◆池田教授のコメント◆
この度「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の専務理事を拝命することとなりました。
「大学スポーツ協会（UNIVAS）」は、大学スポーツの振興と卓越性を有する人材育成を目的とした組織で、学生アスリートが安全に安心して競技に取り組めるための基盤整備や、学業との両立を目指す仕組みの整備、スポーツによる大学のブランディング推進のサポートを行っていく組織です。
今まで競技単位の縦割りであった大学スポーツを、大学及び競技を横断型で統括していくこととなりますので、とてもやりがいを感じております。そして、日本全国の大学関係者の中から仙台大学の私が選ばれたことに感謝をいたしております。
今後の「大学スポーツ協会（UNIVAS）」の活動をご期待ください。

# 新・卓球部OB会に寄せて

第2部懇親会での集合写真（中央は熊坂繁太郎名誉教授）

2月23日（土）仙台大学卓球部OB会が開催されました。第一部は大学での交流試合が企画され、その後第二部として仙台一番町で懇親会が催されました。（私は、仕事の関係で第2部のみ参加）

現在、同窓会の全国支部会議（社員総会）には、ほぼ毎年出席させてもらっていますが、自分が打ち込んだ卓球部OB会への参加は、また格別の感動や味わいがありました。昭和42年の開学と同時に卓球部（監督：中田鉄士氏、部員：高橋（現松下）邦雄氏１名）は誕生しました。これまで卓球部OB会と称し、名簿の作成や機会を見て懇親会を行っていましたが、最近では平成19年4月の熊坂繁太郎2代目部長（仙台大学名誉教授）の勇退祝いでしたので、約12年ぶりのOB会ということになります。懇親会は、3時間を経てもなお瞬く間に閉会を迎え会話ができなかった諸兄も大勢いた状況です。近況報告で当日お話させていただいたことに付け加えて感じたことを記します。

今の自分があるのは仙台大学を卒業したからであり、卓球部での切磋琢磨のおかげ。特に恩師中田先生の導き及び先輩諸氏、同輩、後輩とのつながりを抜きには考えられない。

進取の気概に溢れる中にも、アットホームな雰囲気で育てていただいたことへの感謝と多くの感動により成長することができたこと。

現役学生は、自分を見失わず、失敗を恐れず思い切って頑張ることが有意義な学生生活につながること。「ながら見守り隊」発足のきっかけとなったのが、卓球部の学生であることは部の伝統が生きているからこそと現役学生の行動をとても誇りに思うこと。

今回、馬准教授や現役部員の取り計らいでOB会が開催できたことは、大きな一石が投じられものと感じ、卓球部OB会の継続を願うと共に、微力でも学生の皆さんへの支援の一歩となることから、大きく発展させる必要を感じたこと。

翌日、船岡城址公園から見た残雪の蔵王連邦は雲一つ無い快晴で、心身ともに気持ちを新たに元気や勇気をもらいました。今後とも仙台大学並びに仙台大学卓球部の発展を祈念致します。

＜8期生：北海道根室、釧路支部事務局長・卓球部OB　林　良彦＞

仙台大学卓球部OB会

第一部は大学での交流試合の様子

川平キャンパスAT・S&Cレポート

# 「高校スポーツの安全を守る」Vol.11

担当：小野勇太助手

川平ATRでは、明成高校の運動部活動中に発生したケガに対し、①傷害評価、②アイシングやテーピングの応急処置、③医療機関を紹介し医師による診断を得る、④部活動復帰に向けたアスレティックリハビリテーションという流れでケガから復帰に向けてサポートを実施しています。時には、ケガから復帰まで約1年もかかる重症なケガも、残念ながら発生してしまっているのが実情です。高校生活の限られた3年間、不自由なく毎日競技へ打ち込めるということは、大会で結果を出すことや、レギュラーになることと同等に、もしくはそれ以上に価値あることです。

ATの仕事として、ケガをさせないことや、ケガの程度を最小限に済ませることは、非常に価値あることです。ケガの後の処置やリハビリは勿論必要な能力ですが、『予防』の専門家、これこそATが本来あるべき姿と考えています。そこで今回は私がATとして普段実施している「傷害予防トレーニング」について一部、紹介致します。

指導時間帯は主に部活練習後に行います。トレーニング前には練習によって生じた疲労、各部位の違和感、痛みなどをチェックし、必要に応じてストレッチングやアイシングなどのセルフケアを促します。トレーニングが可能な状態であれば、学年、ポジション、身体特性、個人の目標などに合わせて、トレーニングを処方していきます。

主な内容として、関節の可動性を確認し、不足があればストレッチを指導します。それからバランス訓練や自体重で筋力訓練を実施します。関節に負担をかけない正しい身体の動かし方を十分に覚えてから、徐々に重りを利用した筋力訓練も行います。また、スポーツ動作訓練としてジャンプ、切り返し、キック(サッカー部のため)動作を指導します。特に、競技に関わる動作が傷害との関係性が高いため、安全で効率的な身体操作を指導していきます。その他、受身や転び方の確認と練習も行っています。これは、これまでの傷害相談において、転倒時の不適切な受身と転び方によって、生じるケガが多数あったことへの対策です。

これらの指導全てにおいて、選手の自主性向上を徹底的に意識して接します。傷害予防トレーニングで実施しているのは、傷害予防教育であり、その学んだことを普段スポーツ現場で実践していかねば真の予防効果は生じません。また、他人任せの選手は危機管理意識が少なく、結果としてケガ発生が多い傾向にあり、慢性的な痛みに対してもセルフケアを実践していないことが非常に多いです。そのためケガを悪化させてしまい大事な大会にベストな状態で望めないケースはこれまで数多くありました。こういった選手に対して、何かしてあげる処置ばかりをしていくのではなく、ケガ発生や痛みの原因を理解してもらい、どうすれば改善し予防可能であるかを認識してもらう必要があります。最終的に、個人個人の「意識」をどうよい方向へ向かわせるかが、一番の『予防』に繋がるのです。

この冬、選手達は次の大会である高校総体へ向けて日々切磋琢磨しています。十分なコンディションで日々の練習に打ち込めることは素晴らしいことです。ケガのために競技を中断することのないよう「高校スポーツの安全を守る」活動をこれからも継続していきます。

①筋肉・関節の柔軟性を確認している様子

②ストレッチングを実施している様子

③バランス・筋力訓練をしている様子

④スポーツ関連動作をしている様子

⑤転がり運動を練習している様子